

論文審査の結果の要旨

報告番号	甲医第 1550 号	氏名	Tserennadmid Enkhmaa
審査委員	主査 原田 雅史 副査 勢井 宏義 副査 富田 江一		

題目 Changes in choroidal structure following intravitreal aflibercept therapy for retinal vein occlusion

(網膜静脈閉塞症に対するアフリベルセプト硝子体投与療法後の脈絡膜構造の変化)

著者 Yoshinori Mitamura*, Tserennadmid Enkhmaa*, Hiroki Sano, Masanori Niki, Fumiko Murao, Mariko Egawa, Shozo Sonoda, Taiji Sakamoto (*Y.M. and T.E. contributed equally to this work.)
 令和2年7月3日発行 British Journal of Ophthalmology
 第105巻第5号704ページから710ページに発表済
 (主任教授 三田村佳典)

要旨 網膜静脈閉塞症 (retinal vein occlusion; RVO) は網膜静脈の血管内圧の上昇と網膜虚血による血管内皮増殖因子 (vascular endothelial growth factor; VEGF) の産生により、血管のバリアが破綻して黄斑浮腫をきたし視力低下をもたらす。近年、RVOによる黄斑浮腫に対する抗 VEGF 薬の硝子体内注射が行われるようになったが、予後不良例や治療抵抗例も存在するため、治療前に予後を予測する所見を見出すことは、臨床上重要である。また、光干渉断層計 (optical coherence tomography; OCT) を使用して enhanced depth imaging OCT (EDI-OCT) という撮影手法で非侵襲的に脈絡膜の断層像を得ることが可能となった。

申請者らは EDI-OCT 画像を2階調化することで脈絡膜の管腔・

間質面積を定量化し、未治療 RVO に合併した黄斑浮腫 40 眼に対する抗 VEGF 薬治療後の脈絡膜構造の変化ならびに治療前の脈絡構造と治療予後との関連を検討した。

得られた結果は以下の通りである。

- 1) 抗 VEGF 薬治療前は健眼と比較し間質面積、総脈絡膜面積、間質比は有意に増加していたが、管腔面積には有意差がなかった。
- 2) 治療後 1、3、6 か月で治療前と比較して間質面積、総脈絡膜面積、間質比は有意に減少していたが、管腔面積には有意な変化がなかった。
- 3) 治療前の間質比は治療前の視力・黄斑浮腫の程度、治療後 1、3、6 か月の視力・黄斑浮腫の改善と有意に相関していた。

以上の結果より、黄斑浮腫を伴う RVO では間質浮腫によって脈絡膜が肥厚して抗 VEGF 療法後に菲薄化し、治療前の脈絡膜構造は RVO の病勢や治療予後を反映していることがわかった。本研究は、RVO に伴う黄斑浮腫の治療において臨床的意義は大きく学位授与に値すると判定した。